

第2回いじめアンケートの結果について

【調査日】	令和5年11月13日～12月8日
【調査対象期間】	1学期の終わり～アンケート・面談実施日
【調査対象】	全校児童

学校では、いじめはどの子にも、どの学級にも起こりうるものであるという認識のもと、年間を通じ、全ての教育活動において、いじめを「しない、させない、許さない」ための指導に努めているところです。豊かな体験活動を通じた自己有用感の醸成や道徳科教育の充実による心の教育の推進にも力を入れています。

いじめの早期発見・解決に活かすことを目的とし、第2回目のアンケートを実施しました。今回は、調査対象期間の出来事に加え、第1回アンケート（6月実施）で困ったことがあると回答した児童について、その後の経過や現在の気持ちについても丁寧に聞き取り調査を行いました。

今回の調査で困っていることがあると回答した児童は34名で、内容別には52件となりました。その内訳は、以下のとおりです。

- ① 冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。（26件）
- ② 仲間はずれ、集団による無視をされる。（7件）
- ③ 軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする。（8件）
- ④ ひどくぶたれたり、たたかれたり、蹴られたりする。（1件）
- ⑤ 嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。（5件）
- ⑥ その他（5件）

その他と回答した5件については、「睨まれたような感じがした。」「きつい言い方で注意される。」「蛇を持って追いかけられた。」「嘘をつかれる。」「遊びに誘って断られたが、他の子と遊んでいた。」という内容でした。

また、6月に認知した31名のうち30名は嫌な思いも止んでおり、解消が確認されました。1名は、まだ少し嫌な気持ちがあると回答したため、見守りを継続していきます。

今回の調査においては、他学年との間で起こった内容や下校中、下校後の遊びの中で嫌な思いをしたという内容も多く確認されました。また、相手の立場や気持ちに考えが及ばず、不適切な言動を繰り返してしまっている様子もうかがえました。

アンケートや面談の時だけでなく、不適切な言動が確認された場合には、その都度、丁寧な個別指導を繰り返すとともに、継続してよりよい集団づくりに努めてまいります。そのためにも、日々の学習や生活の中で、一人一人の頑張りやできるようになったことを認め、集団として成長していることを実感させながら、自己肯定感の醸成を図っていきたいと思います。

引き続き、何かあればいつでも相談できる関係づくりや雰囲気づくりを心がけ、どの子も安心していきいきと自分の力を発揮することができる「いじめのない」学校づくりを目指して取り組んでいきます。

ご家庭や地域におかれましても、子どもたちの様子を温かく見守っていただき、気になることがございましたら、学校までお知らせください。

